

2015年度(平成27年度)学校評価自己評価表

芦田中学校区	校番 40	福山市立 有磨小 学校
--------	-------	-------------

I 福山市 めざす子ども像

福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 中学校区

1 めざす子ども像

ふるさと芦田に愛着と誇りを持ち 未来を切り拓き たくましく生きる子ども

2 児童生徒の現状

昨年度に引き続き、校区の共通テーマを「生徒指導の三機能を生かした授業改善」として、「分かる授業」・「積極的に参加できる授業」を目指して取り組んだ。どの学校においても、児童生徒アンケートで「授業が分かりやすい」や「授業に積極的に参加(発表や質問)した」の項目で前年より上昇しており、一定の成果があった。

昨年度の「基礎・基本」定着状況調査では、小学校では県平均を上回ってきているが、中学校では下回る教科が多い。また小・中学校でも学年によって学力差が生じるなど、安定した学力がっていないことが課題である。問題別では、活用の問題は基礎的な問題より大きく落ち込んでいる。授業改善に取り組んで、授業に真面目に参加しているが、筋道を立てて説明したり、自分の考えを相手意識をもって発表したりする思考力や表現力の育成には今後重点的に改善を図っていく必要がある。

生活面では、校区をあげて芦田スタンダード(挨拶・服装・掃除)の取組を重点的に行った結果、小中学校とも90%以上の達成率となり、自己有用感も小学校95%、中学校70%と昨年度より高まっている。しかし、保護者や地域からは「挨拶の声が小さい」という声があり、児童や生徒の達成感とギャップが出ている。

体力づくりの取組みでは小中ともに全種目中の県平均を上回る種目数が増えてきた。小中で課題を分析し、その改善策について交流したり、出前授業を実施した成果である。しかし、種目によって偏りがあり、特に筋力や柔軟性には顕著な課題が見られる。

3 課題

○基礎学力の定着と思考力・表現力の育成 ○自己有用感の向上 ○体力の向上(筋力・柔軟性の向上)

III 自校

1 学校教育目標

豊かな心をもち、主体的に生きる有磨っ子を育てる
「よく聴き 進んで学ぶ子」 「なかよく助け合う子」 「最後までやりぬく子」

2 経営理念

(1) 中学校区における自校の使命(ミッション)

21世紀をたくましく生き抜く知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな児童を育成する

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

ARIMA CAN DO IT

- ・豊かな学びのある学校
- ・安全で美しい学校
- ・生き生きと活動している学校
- ・家庭や地域と共にある学校

3 前年度重点目標と達成状況

前年度重点目標	達成状況
① 基礎学力の定着を図る授業力の向上	①「基礎・基本」定着状況調査では国語・算数・理科の3教科ともは県平均を上回った。
② 自己有用感の向上	②「自分にはよいところがある」と答えた児童は、96%で目標値を達成することができた。
③ 体力の向上	③全種目中、66.7%が県平均を上回ることができた。

4 本年度重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
① 基礎学力の定着と思考力・表現力の育成	①基礎学力の向上は見られるが、学年による差があり、安定していないため。また、筋道立てて表現する力が弱い。②芦田スタンダードへの取組み(特に挨拶)を全校で進め、児童に達成感を持たせるため。
② 自己有用感の向上	③体力の向上は見られるが、筋力や柔軟性に課題があり、総合的な体力を向上させるため。

5 前年度の学校関係者評価結果を踏まえた改善点

- ① 基礎学力・体力を向上させる。
- ② 芦田スタンダード定着(特に元気のよい挨拶)に向けての取組みを充実させる。

※ 評価基準

評価・指標評価	基準	
	基	準
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

IV 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策																																						
確かな学力	2	基礎学力の確実な定着を図る。	★	継 続	学習意欲を高め、基礎学力を定着させる。	B	△「基礎・基本」定着状況調査において、国語・算数・理科ともに県平均を上回る。 △国語・算数のCRTテストで全学年とも全国比を上回らせる。 (CRTテスト)	a	□県平均との比較は次の通りである。(通過率)																																						
									<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>国語</td> <td>算数</td> <td>理科</td> </tr> <tr> <td>有磨小</td> <td></td> <td>78.6%</td> <td>80.0%</td> <td>76.3%</td> </tr> <tr> <td>広島県</td> <td></td> <td>74.7%</td> <td>71.6%</td> <td>65.3%</td> </tr> </table> <p>○3教科ともに教科全体の通過率は、県平均を上回った。 ◎アクションプランにより、授業にペア学習や肯定的評価の多用を全校で取り組み、授業改善を行う。</p>			国語	算数	理科	有磨小		78.6%	80.0%	76.3%	広島県		74.7%	71.6%	65.3%																							
		国語	算数	理科																																											
有磨小		78.6%	80.0%	76.3%																																											
広島県		74.7%	71.6%	65.3%																																											
								b	□CRTテストの全国との比較は次の通りである。(得点率)																																						
									<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">国語</td> <td>本校</td> <td>87.2</td> <td>79.7</td> <td>64.3</td> <td>73.1</td> <td>71.0</td> <td>77.7</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>79.2</td> <td>76.5</td> <td>65.8</td> <td>70.0</td> <td>66.7</td> <td>70.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算数</td> <td>本校</td> <td>84.3</td> <td>84.1</td> <td>75.6</td> <td>70.8</td> <td>78.1</td> <td>84.3</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>78.7</td> <td>78.7</td> <td>76.1</td> <td>67.9</td> <td>67.9</td> <td>65.8</td> </tr> </table> <p>○全学年が全国比を上回ることではできなかった。 ◎パワーアップ週間や、朝の帯タイム、放課後、家庭学習等を活用して取組むことにより、基礎学力の定着を図る。</p>			1年	2年	3年	4年	5年	6年	国語	本校	87.2	79.7	64.3	73.1	71.0	77.7	全国	79.2	76.5	65.8	70.0	66.7	70.5	算数	本校	84.3	84.1	75.6	70.8	78.1	84.3	全国	78.7	78.7	76.1	67.9	67.9	65.8
		1年	2年	3年	4年	5年	6年																																								
国語	本校	87.2	79.7	64.3	73.1	71.0	77.7																																								
	全国	79.2	76.5	65.8	70.0	66.7	70.5																																								
算数	本校	84.3	84.1	75.6	70.8	78.1	84.3																																								
	全国	78.7	78.7	76.1	67.9	67.9	65.8																																								
豊かな心	2	自己有用感を高める。	★	継 続	地域の教育力を活用し、自己有用感を持てる児童を育成する。	A	△芦田校区スタンダードに基づいた「あいさつ」を徹底させ、達成率を85%以上にする。 (学期毎の児童意識調査・教師の見取り)	a	□児童意識調査、教師の見取りの結果は次の通りである。 (よくできている・できている %)																																						
									<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> <td>教師</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大きな声で</td> <td>教で</td> <td>83</td> <td>93</td> <td>85</td> <td>100</td> <td>95</td> <td>100</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>地で</td> <td>83</td> <td>93</td> <td>88</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">自分から</td> <td>教で</td> <td>74</td> <td>100</td> <td>85</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>地で</td> <td>83</td> <td>93</td> <td>81</td> <td>100</td> <td>95</td> <td>100</td> <td></td> </tr> </table> <p>○達成率は89%で目標を上回る事ができた。 人より先に自分からあいさつを目標にしたあいさつ運動や良くできている児童の挨拶の様子を紹介することで、よりよい挨拶のしかたの共通理解ができた。</p>			1年	2年	3年	4年	5年	6年	教師	大きな声で	教で	83	93	85	100	95	100	83	地で	83	93	88	100	100	100		自分から	教で	74	100	85	100	100	100	83	地で	83	93
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	教師																																							
大きな声で	教で	83	93	85	100	95	100	83																																							
	地で	83	93	88	100	100	100																																								
自分から	教で	74	100	85	100	100	100	83																																							
	地で	83	93	81	100	95	100																																								

					<p>△「自分にはよいところがある」という肯定的評価（「そう思う」）の割合を60%以上にする。（学期毎の児童意識調査）</p>	<p>a</p> <p>◎今後も、地域・保護者の協力を得ながら「あいさつ」を通して、自己有用感を育てていく。</p> <p>□児童意識調査の結果は次の通りである。</p> <table border="1" data-bbox="1487 341 2136 416"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そう思う</td> <td>78%</td> <td>85%</td> <td>65%</td> <td>91%</td> <td>80%</td> <td>100%</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○肯定的評価の割合は、平均83%で目標を上回る事ができた。 授業における肯定的評価の多用と合わせ、生活の中で意識的に教師が褒める場面を作り出す事や、児童会で取組んだ「キラリ見つけ週間」や「よいところ見つけ」など児童相互による肯定的評価を学級活動で取組むなど、様々な事に取り組んできた結果と考えられる。 ◎児童会を中心とした「キラリ見つけ週間」など全校での取組みを積極的に進め、各学年100%に近づけていく。</p>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均	そう思う	78%	85%	65%	91%	80%	100%	83%																																								
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均																																																							
そう思う	78%	85%	65%	91%	80%	100%	83%																																																							
<p>健やかな体</p>	<p>2</p>	<p>たくましく生きるための健康づくり、体力づくりをする。</p>	<p>★ 継続</p>	<p>進んで体力の向上に努めようとする児童の育成を図る。</p>	<p>A</p> <p>△新体力テストの筋力・柔軟性の結果が、県平均を上回る項目の割合を70%以上にする。</p>	<p>a</p> <p>□筋力・柔軟性に関わる新体力テストの結果は、次の通りである。（網掛は、県平均以上の項目）</p> <table border="1" data-bbox="1487 820 2119 1139"> <thead> <tr> <th>学年 性別</th> <th>握力 (kg)</th> <th>上体起 こし (回)</th> <th>長座体 前屈 (cm)</th> <th>学年 性別</th> <th>握力 (kg)</th> <th>上体起 こし (回)</th> <th>長座体 前屈 (cm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1男</td> <td>10.17</td> <td>16.91</td> <td>30.50</td> <td>4男</td> <td>14.31</td> <td>23.00</td> <td>26.69</td> </tr> <tr> <td>1女</td> <td>9.73</td> <td>15.45</td> <td>31.82</td> <td>4女</td> <td>14.30</td> <td>20.80</td> <td>34.80</td> </tr> <tr> <td>2男</td> <td>11.71</td> <td>16.14</td> <td>31.29</td> <td>5男</td> <td>16.54</td> <td>22.23</td> <td>34.69</td> </tr> <tr> <td>2女</td> <td>12.14</td> <td>14.14</td> <td>33.43</td> <td>5女</td> <td>18.25</td> <td>21.00</td> <td>38.25</td> </tr> <tr> <td>3男</td> <td>11.92</td> <td>16.00</td> <td>27.93</td> <td>6男</td> <td>20.50</td> <td>25.38</td> <td>36.38</td> </tr> <tr> <td>3女</td> <td>11.08</td> <td>20.17</td> <td>29.00</td> <td>6女</td> <td>21.00</td> <td>22.31</td> <td>41.08</td> </tr> </tbody> </table> <p>○筋力・柔軟性に関わる項目（握力・上体起こし・長座体前屈）で県平均を上回った項目の割合は72%（26/36）で目標を上回った。 筋力・柔軟性を高めるために柔軟運動やサーキットトレーニングを授業に位置付けやり切らせていく事を全校で取り組んだ結果の表れと考える。 ◎児童が、運動への興味関心を高め、意欲的に体育の授業に臨むための授業づくりをしていく。</p>	学年 性別	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)	学年 性別	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)	1男	10.17	16.91	30.50	4男	14.31	23.00	26.69	1女	9.73	15.45	31.82	4女	14.30	20.80	34.80	2男	11.71	16.14	31.29	5男	16.54	22.23	34.69	2女	12.14	14.14	33.43	5女	18.25	21.00	38.25	3男	11.92	16.00	27.93	6男	20.50	25.38	36.38	3女	11.08	20.17	29.00	6女	21.00	22.31	41.08
学年 性別	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)	学年 性別	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)																																																							
1男	10.17	16.91	30.50	4男	14.31	23.00	26.69																																																							
1女	9.73	15.45	31.82	4女	14.30	20.80	34.80																																																							
2男	11.71	16.14	31.29	5男	16.54	22.23	34.69																																																							
2女	12.14	14.14	33.43	5女	18.25	21.00	38.25																																																							
3男	11.92	16.00	27.93	6男	20.50	25.38	36.38																																																							
3女	11.08	20.17	29.00	6女	21.00	22.31	41.08																																																							

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">力量ある教職員</p>	<p style="text-align: center;">2</p>	<p>研究・研修を充実させ、教職員の授業力の向上を図る。</p>	<p style="text-align: center;">新 規</p>	<p>思考力・表現力を高める授業づくりを進める。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p>△算数科を中心とした授業研究を計画的に行い、自ら進んで考え、はっきり表現する児童の割合を80%以上にする。 (学期毎の児童意識調査・教師の見取り)</p>	<p>□児童の意識調査・教師の見取りは、次の通りである。 (よくできた・できた割合) ・自分の考えをノートに書いたり、友達に説明したりできる。</p> <table border="1" data-bbox="1489 327 2094 443"> <thead> <tr> <th colspan="6">児童</th> <th rowspan="2">教師</th> <th rowspan="2">平均</th> </tr> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87%</td> <td>64%</td> <td>69%</td> <td>91%</td> <td>86%</td> <td>100%</td> <td>83%</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・進んで発表している。</p> <table border="1" data-bbox="1489 561 2094 678"> <thead> <tr> <th colspan="6">児童</th> <th rowspan="2">教師</th> <th rowspan="2">平均</th> </tr> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>100%</td> <td>69%</td> <td>91%</td> <td>62%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>85%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○平均84%で目標値を達成することができた。自分の考えを持たせる段階で、机間指導やノート指導等での肯定的評価や、ペア学習での活用が表現力を高めることに効果的であったと考える。 ◎引き続き、はっきり表現する力を高めるために、ペア学習での活用のねらいを明確にし、活用場面の工夫等を行う。また、各教科、道徳等を中心にして、自分の考えをはっきり表現し、児童相互が関わり合う授業作りを進め、思考力・表現力を高めていく。</p>	児童						教師	平均	1年	2年	3年	4年	5年	6年	87%	64%	69%	91%	86%	100%	83%	83%	児童						教師	平均	1年	2年	3年	4年	5年	6年	70%	100%	69%	91%	62%	100%	100%	85%
児童						教師	平均																																												
1年	2年	3年	4年	5年	6年																																														
87%	64%	69%	91%	86%	100%	83%	83%																																												
児童						教師	平均																																												
1年	2年	3年	4年	5年	6年																																														
70%	100%	69%	91%	62%	100%	100%	85%																																												
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">市民から信頼される学校</p>	<p style="text-align: center;">2</p>	<p>組織的・機能的な学校体制を確立する。</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p>	<p>学校からの積極的な情報発信を行い、保護者・地域から信頼される学校運営を行う。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>	<p>△「子どもの教育や指導について校内で統一した指導や対応をしている」という肯定的評価（「そう思う」）の割合を60%以上にする。 〔保護者・地域（民生児童委員・学校支援員）の年2回のアンケート調査〕</p>	<p>□保護者・地域の意識調査の結果は、次の通りである。</p> <table border="1" data-bbox="1489 997 2150 1141"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">保護者</th> <th rowspan="2">地域</th> <th rowspan="2">平均</th> </tr> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そう思う</td> <td>48%</td> <td>62%</td> <td>61%</td> <td>57%</td> <td>48%</td> <td>90%</td> <td>43%</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>やや思う</td> <td>48%</td> <td>38%</td> <td>35%</td> <td>43%</td> <td>52%</td> <td>10%</td> <td>57%</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○「そう思う」の割合は、平均 58%で目標には届かなかったが、昨年度に比べて肯定的評価は高まっている。 ◎学校の取組み内容について全職員がしっかりと共通理解を図り実践していく。また、学校だよりやホームページ等で、行事紹介だけに終わらず、学校全体での取り組み内容や成果・課題についてもわかりやすく紹介していく。</p>		保護者						地域	平均	1年	2年	3年	4年	5年	6年	そう思う	48%	62%	61%	57%	48%	90%	43%	58%	やや思う	48%	38%	35%	43%	52%	10%	57%	40%											
	保護者						地域		平均																																										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																																													
そう思う	48%	62%	61%	57%	48%	90%	43%	58%																																											
やや思う	48%	38%	35%	43%	52%	10%	57%	40%																																											